

笑ってごらん

第 615 号 H. 30. 2. 27 発行

～今日のことば～

時には自信に溢れ、時には劣等感のかたまりになる。
こうした気持ちの揺れがプロ生活を支える。

(藤子・F・不二雄)

◇◆校内の梅の花が馥郁とした香りを放っている。前身である加世田女子高等学校の校歌冒頭に、そして現在も女子寮の名前になっている「しらうめ（白梅）」ばかりでなく、紅梅も鮮やかな彩りをも楽しませてくれている。この冬の寒さが厳しかったからであろうか、木々も春の訪れを待ちわびているように感じられてならない。 ◆年度末が近づき、学校は慌ただしさを迎えている。3月1日は卒業式。いま、連日、式の流れの確認をはじめとした練習が行われているところである。今回の卒業生は高校 351 名、看護学科専門課程 196 名、計 547 名。それぞれ 3 年間ないし 5 年間で本校で過ごし、卒業式を目前にどんなことを考えているのだろうか。一言では語り尽くせない多くの思い出がそれぞれにあることだろう。喜・怒・哀・楽・・・、その都度様々な感情を抱くに至り、それゆえに出来事が記憶にすり込まれているのだ。それは目の前のことに真剣に向き合ったからこそであろう。鳳凰高校在学中に経験したことが社会に出てから実を結ぶこともあるだろう。高校時代の思い出は貴重な宝物となる。忘れないで次へ活かして欲しい。 ◆卒業するということは、同時に、これから新たな環境に身を置いて新たな生活が始まることを意味している。一人の社会人として、プロとしてのスタートを切る人もいる。どんな場面であっても、初めて取り組む時は「うまくできるだろうか？」などの不安がつきまとうのは当たり前のこと。これまでもそうであったことと思う。ドキドキしながら「初めて」の不安を乗り越え、次の機会には前回の取り組みが良き経験となって、気持ちも穏やかに対応できる。物事を成就するためには必ず「初めて」と向き合うことが大切である。ということは、いろいろなことに対して勇気を持って「初めの一步」を踏み出すことが重要になってくる。目の前に機会が訪れたら、機を逃さずに即チャレンジ！ 躊躇していると、再びのチャンスは巡ってこない。物怖じすること無く挑戦することを忘れないこと。梅の香りに包まれ、誇りを持って巣立って欲しい。卒業、おめでとう！



～・・・～

感謝道

◇◆ピョンチャンオリンピックが閉幕した。日本選手団としては過去最高となる 13 個のメダルを獲得した。嬉しい限り。期間中、それぞれの種目において繰り広げられる熱戦を観ていて、いつの間にやら我が事のようにテレビに向かって熱く声援をおくっている自分がいた。中にはルールもほとんど分からない競技もあり、このようにオリンピックなどが無ければ知る由も無い状態。また、全般的には「どうして冬のオリンピック競技には危険と紙一重の種目が多いのだろう」という感想を持つに至った。というのも、空中でクルクル回って着地に失敗し地面に叩き付けられた選手の姿もあったからだ。もちろん、それぞれの種目の選手たちはこれまでの 4 年間に行われた各種大会の実績によってオリンピック出場権を得てきている訳なので、専門の技術力には長けている人たちばかりである。私たち素人が気を揉む必要は無いのも頭では理解してはいるのだが、それにしても危ない競技の多いことと云ったら・・・。さて、このオリンピック、2 年後の 2020 年夏は東京で、4 年後の 2022 年は北京で行われる。これからもそれぞれの選手たちは熱い感動を与え続けてくれることだろう。